

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 (仮称) ○○○○共同住宅新築工事
建築場所
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造種別
木造 (W) 補強コンクリートブロック造 (CB) 鉄骨造 (S)
鉄筋コンクリート造 (RC) 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階数
地下 階 地上 4 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 共同住宅
- (6) 屋上付属物
高架水槽 KN キュービクル KN 広告塔 煙突
- (7) 特別な荷重
エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) リフト KN ホイスト KN
倉庫積載用 N/m² 受水槽 KN
- (8) 付帯工事
門扉 擁壁
- (9) 増築計画 有 () 無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート3 - () Y方向ルート1 - ()

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質基準強度 F _a =N/mm ²	水セメント比 %	スランプ cm	単位水量
柱コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	16	16	85%以下	18	185kg/m ³
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	21	85%以下	18	185kg/m ³
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	30	33	50%以下	21	185kg/m ³
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	30	33	50%以下	21	185kg/m ³
押入コンクリート	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	18	18	85%以下	18	185kg/m ³
塗料						単位水量 185kg/m ³ 以下 単位セメント量 270kg/m ³ 以上 空気量 4~6%

(2) コンクリートブロック (CB)

- A種 B種 C種 厚100、120、150、190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
<input checked="" type="checkbox"/> SD255A	D16以下		<input checked="" type="checkbox"/> 縦向き継手
<input type="checkbox"/> SD255B	D16以下		<input type="checkbox"/> 横向き継手
<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19以上		<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手
<input checked="" type="checkbox"/> SD390	D29以上		<input type="checkbox"/> D19以上
高強度せん断補強鉄筋			<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸鋼			()
溶接金網	<input checked="" type="checkbox"/> SR235		

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input type="checkbox"/> SK400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SM400A、B、C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SKR400 <input type="checkbox"/> SKR490		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SMC490A <input type="checkbox"/> SM490B、C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SSC400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

○使用箇所の詳細については別図面とする。

(5) ボルト

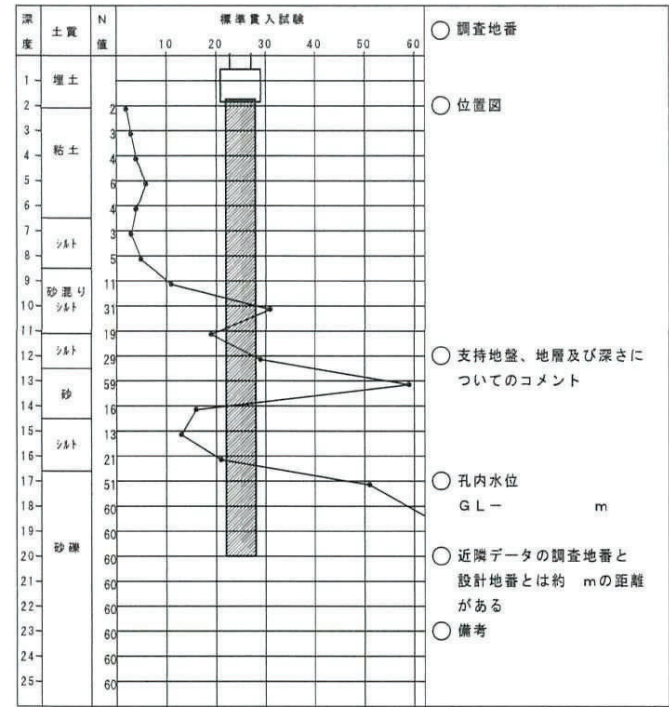
- 高力ボルト
普通: F10T 特殊: S10T 認定品 (M12 M16 M20 M22 M24)
- 中ボルト
M M 高力ボルトすべり係数試験 要 否
- アンカーボルト (階段用)
S S400 M16 L=650 mm ナット (シングル、ダブル)
 M L= mm ナット (シングル、ダブル)
- 頭付スタッド
φ= L= mm 使用箇所 (柱、大梁、小梁)
φ= L= mm 使用箇所 (柱、大梁、小梁)

(6) 屋根、床、壁

- ALC板 厚 100
- 折板 形式 H= 厚
- デッキプレート 形式 厚
- キーストンプレート 形式 厚

3. 地盤

- (1) 地盤調査
標準地内 近隣 ボーリング調査 平板載荷試験 水平地盤調査
深さ化判定 現場透水試験 土質試験
- (2) 地盤調査計画
無 (調査予定 有 無)
ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定
土質試験 物理調査 平板載荷試験 試験掘 (支持層の確認)
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果より、長杭、杭、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎、杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

- (1) 直接基礎
ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無
深さ GL- m 支持層-
長期許容支持力度 KN/m² 載荷試験 有 無
- (2) 基礎杭 支持層-砂礫層

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み (セメントミルク工法)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SKK400	<input type="checkbox"/> 打込み	大臣登録 号
<input type="checkbox"/> PHC (鋼付)			年月日
現場所打ち	コンクリート F _c =27N/mm ²	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 粘着杭	粘着杭
コンクリート杭	スランプ 18 cm セメント量 330 Kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD390 SD345 HOOP SD295A	<input type="checkbox"/> リバーサキューレーション <input type="checkbox"/> エアードリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 摩擦 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	日本建築センター認定 号 年月日

杭仕様 施工計画書承認 杭杭杭結果報告書
試験杭 (有 無) (打ち込み 載荷) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (KN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項
800	1200	GL-2.0	2	
1000	1900	GL-2.0	1	
1200	2800	GL-2.0	9	
1400	3800	GL-2.0	20	

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
※本標準仕様及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度 (F_c) が 36 N/mm²以下に適用する。
JIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5 (2022) による。
標準強度 F_c 一般 標準 長期
S R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
事前開始前に工事監督者の承認を得ること。
その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³を超える場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4本を用いる。
ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) 鉄筋
鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5 (2022) による。
高強度せん断補強鉄筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。
鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本建築協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回試験は5本以上とする。外観検査 有 無 引張試験 有 無 超音波試験 有 無
柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、 H型 (タガ型) W型 (溶接型) S型 (スパイラル型) となる。
コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名 工事監督者の指定機関
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
- (3) 型枠
材料 合板厚 12mmを標準とする。 施工はJASS5 (2022) による
型枠貯留期間

種類	せき板				支柱			
	基礎、梁、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下		
セメントの種別	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント		
	高強度ポルトランドセメント	高強度ポルトランドセメント	高強度ポルトランドセメント	高強度ポルトランドセメント	高強度ポルトランドセメント	高強度ポルトランドセメント		
貯留期間平均気温	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
コンクリートの圧縮強度	50 N/mm ²	5	8	10	16	15	28	28
	設計基準強度の50%	設計基準強度の		85%	100%			

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
鉄骨製作工場の性能評価基準 (Rグレード以上)
 - (2) 工事監督者の承認を必要とするもの
制作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
材料規格証明書または試験成績書
鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド
社内検査表
 - (3) 工事監督者が行う検査項目
(印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)
現寸検査 組立・開先検査 製品検査
建方検査
 - (4) 接合部の溶接は下記によること
鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱い要綱 (建築構造設計指針第12章)
日本建築学会「溶接作業基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」
 - (5) 接合部の検査
溶接部の検査溶接部の検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)
- | 検査箇所 | 検査方法 | 検査率又は検査数 | | | 備考 |
|-----------------------------------|-----------|----------|------|-------|----|
| | | 社内 | 第三者 | 工事監督者 | |
| <input type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部 | 超音波探傷試験 | 100% | 100% | 100% | |
| <input type="checkbox"/> | 外観(目視)検査 | 96% | 96% | 96% | |
| <input type="checkbox"/> | マクロ試験・その他 | 個 | 個 | 個 | |
- 第三者検査機関名 IW認定事業者
第三者検査機関とは、建築主、工事監督者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
- 注) 1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。
 - 注) 2) 現場溶接は、超音波探傷試験を100%行う事。
 - 高力ボルトは「JIS B 1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
 - 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。
 - (6) 防錆塗装
防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
 - 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
 - (7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

参考

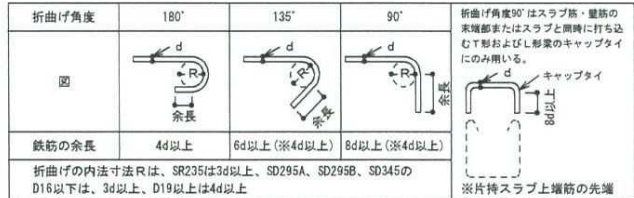
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号
 - d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の径 R...半径
 - φ...中心線 Q...部材間の内法距離 ho...部材間の内法高さ
 - ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

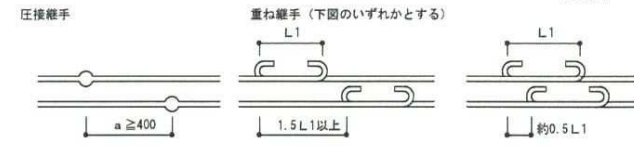
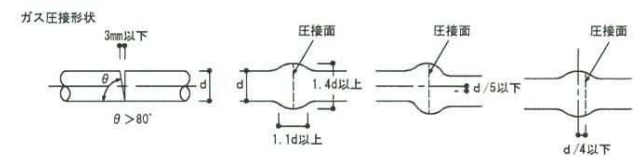
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内径寸法 (R)
①	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A	16φ以下 D16	3d以上
		SD295B, SD345	19φ以上 D19	4d以上
②	上記以外の鉄筋	SR235, SD295A	16φ以下 D16	6d以上
		SD295B, SD345	19φ~25φ D19~D25 28φ~32φ D29~D38	8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
		一般 (L2)	下地筋 (L3)	
SR235	21~36	35d フックつき	25d フックつき	35d フックつき
	18以下	45d フックつき	15cm フックつき	45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21~36	35d または 25d フックつき	25d または 10d かつ 15cm 以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき	15d フックつき	45d または 35d フックつき

継手 [注] 柱に取り付けるはりの引張り鉄筋は、柱に定着される部分の長さを40dとする。

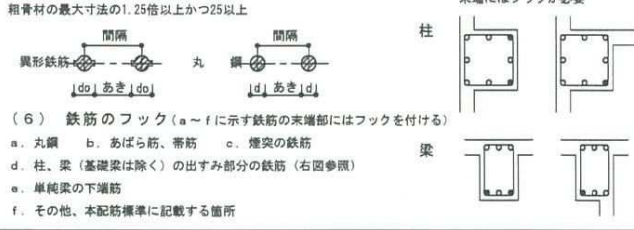
- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



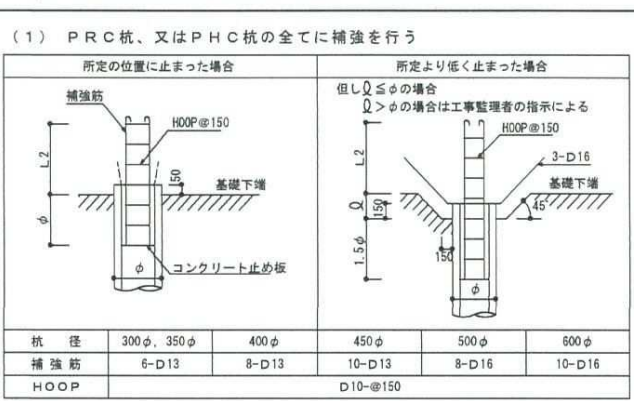
部位	設計かぶり厚さ (mm)		最小かぶり厚さ (mm)	
	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ
土に接しない部分	層間スラブ	40	30	30
	床スラブ	50	40 (30)	40 (30)
土に接する部分	柱	50	40	40
	梁	60	50 (40)	50 (40)
土に接する部分	柱・梁・床・壁・基礎立上り部分	60	50	50
	基礎 (立上り部分及び捨てコンクリートの部分を除く)・壁	80	70	70

- 耐久性上有効な仕上げのある場合、外壁の外側に面する部位に限り、工事監督者の承認を受けて30mmとすることができる。
- 耐久性上有効な仕上げのある場合、外壁の外側に面する部位に限り、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
- コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
- () 内は耐久性上有効な仕上げがある場合。但し、外壁の外側に面する部位に限る。

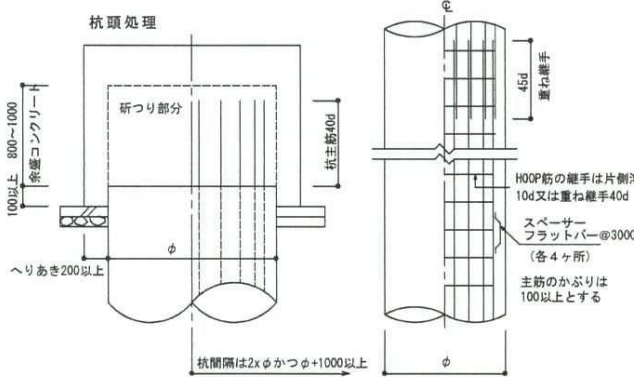
3. 杭



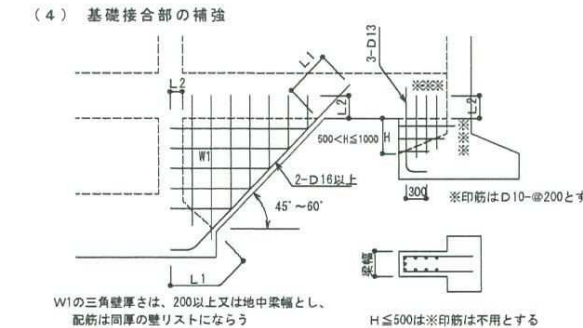
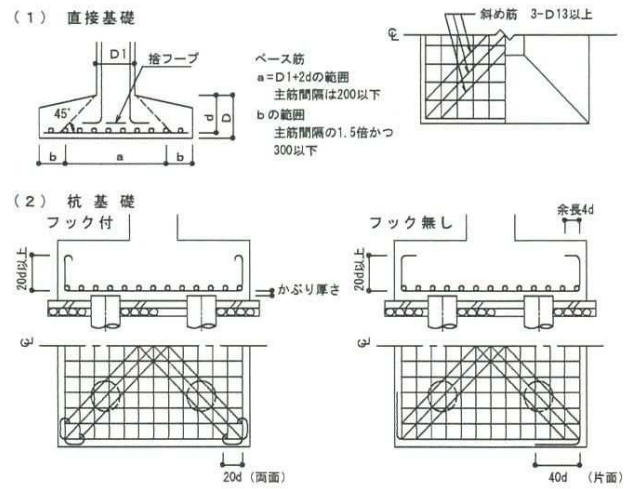
(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う



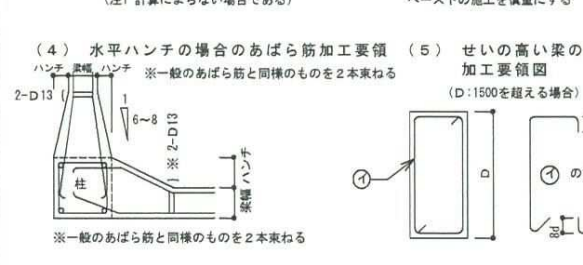
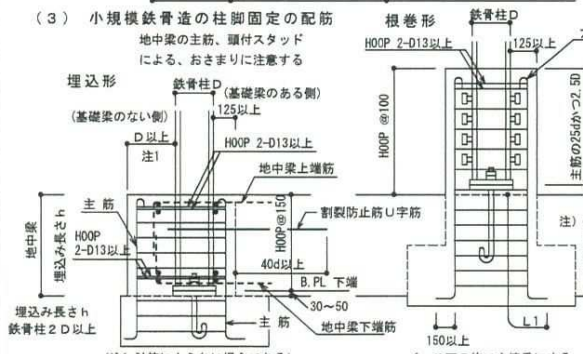
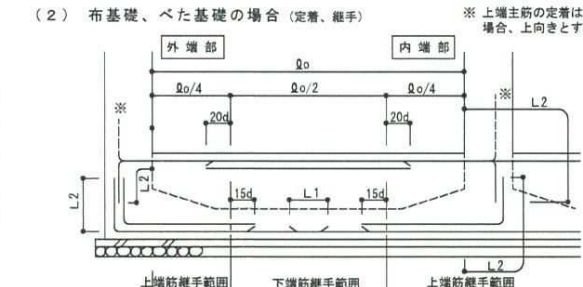
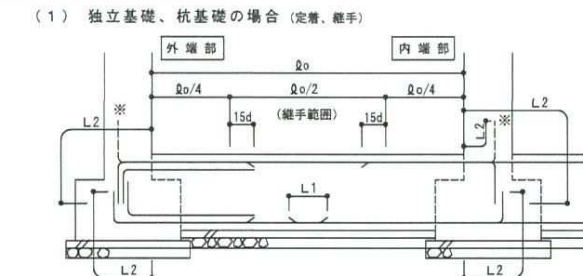
(2) 現場打ちコンクリート杭



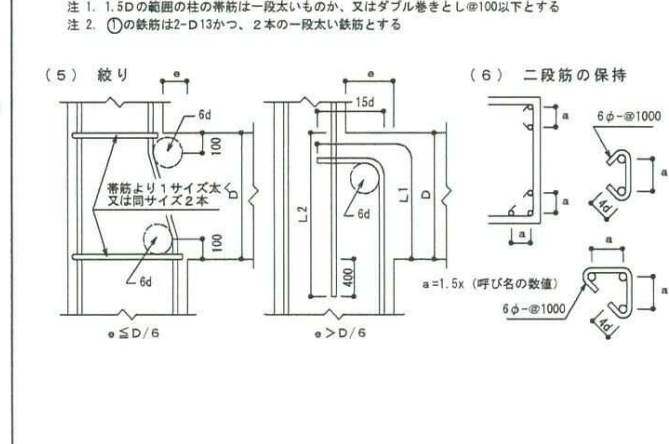
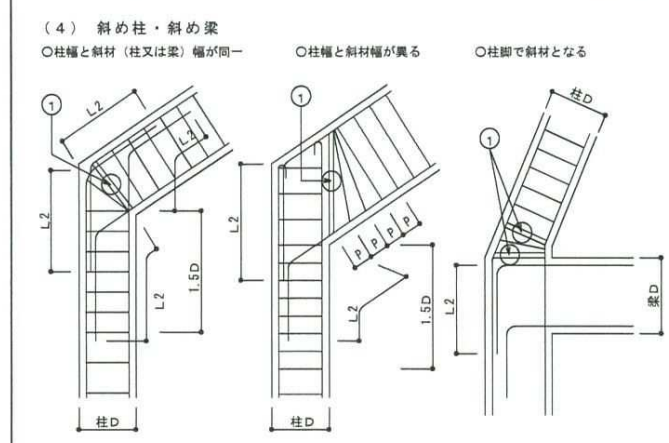
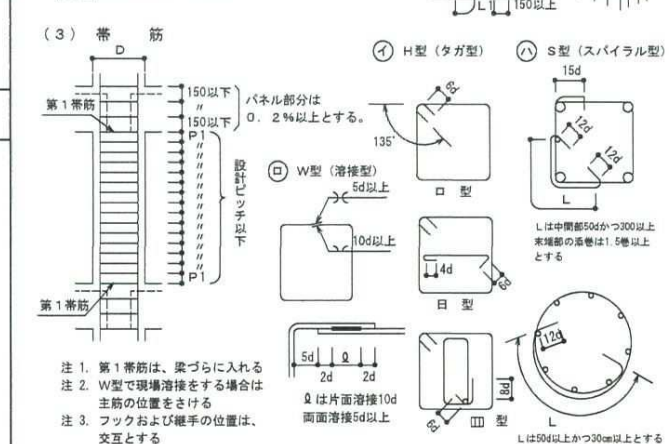
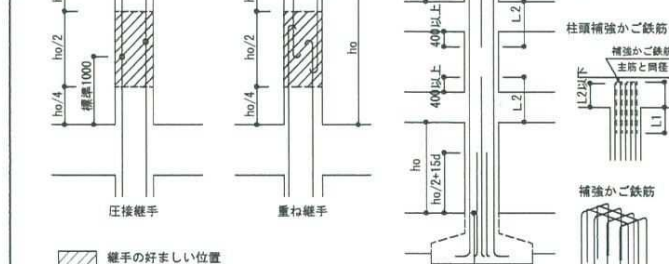
4. 基礎

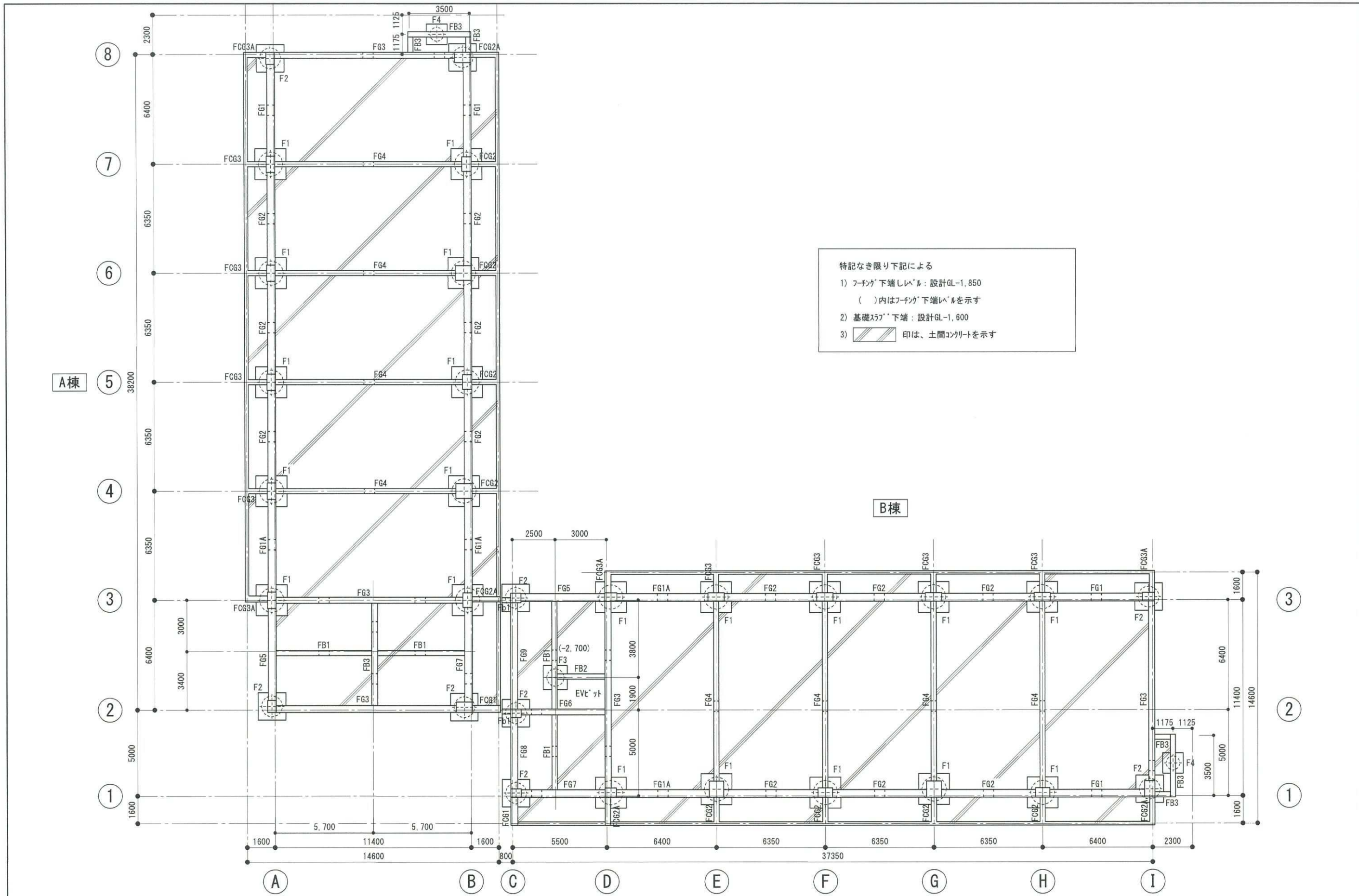


5. 地中梁



6. 柱

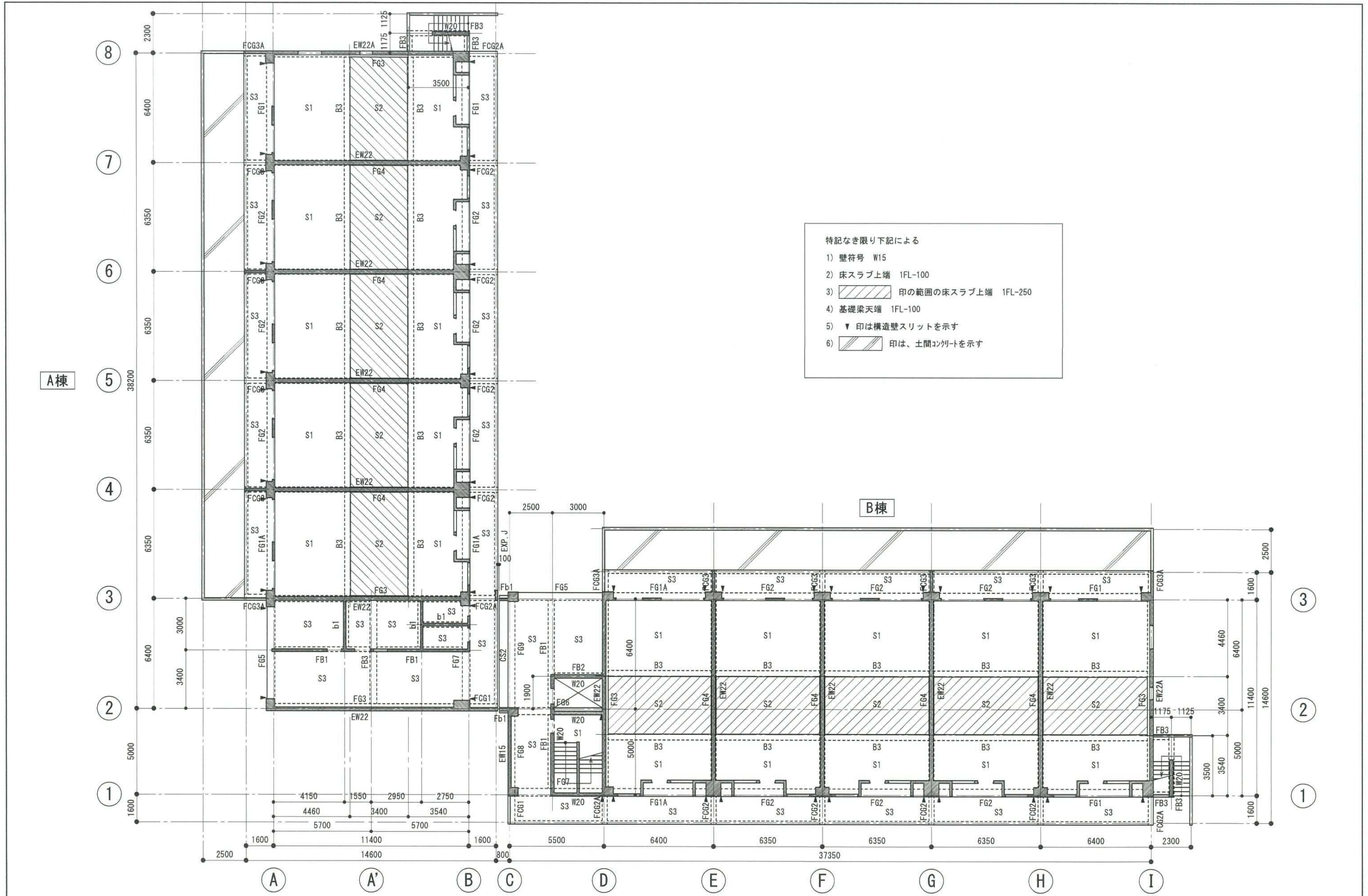




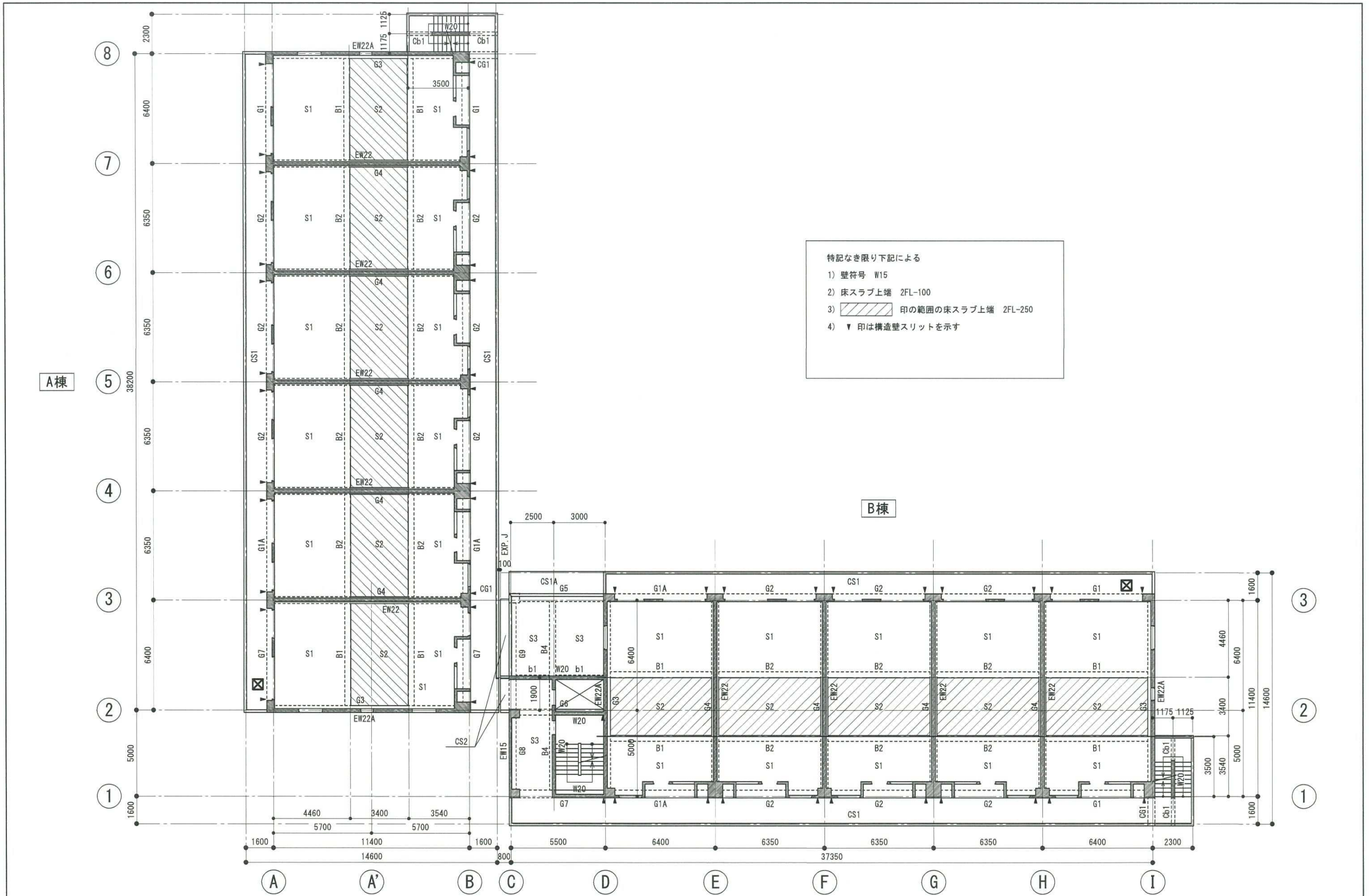
特記なき限り下記による

- 1) フーチング下端レベル：設計GL-1,850
()内はフーチング下端レベルを示す
- 2) 基礎スラブ下端：設計GL-1,600
- 3) 印は、土間コンクリートを示す

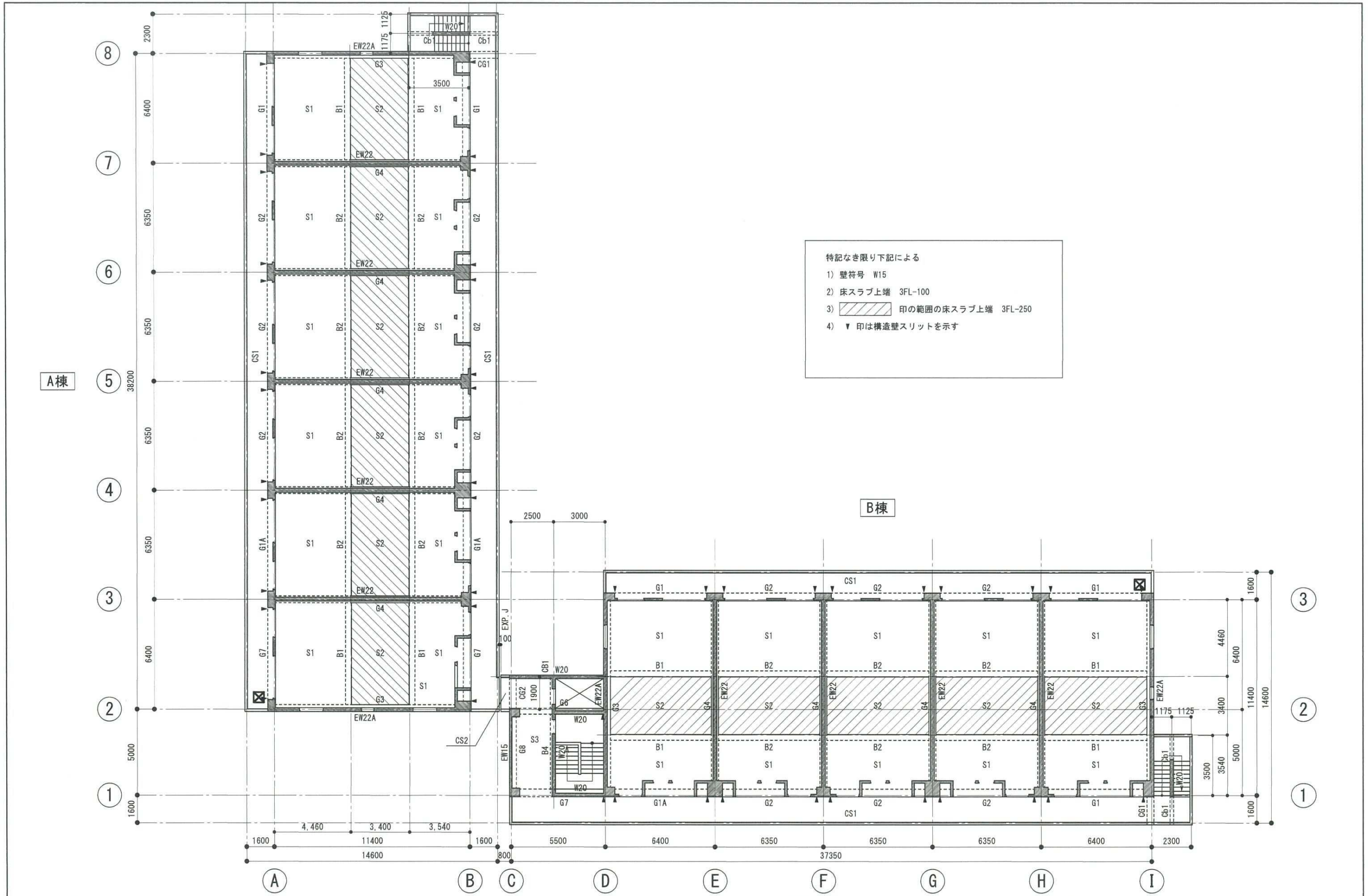
備考 一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号 株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所 一級建築士〇〇〇〇大臣登録第〇〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇	工事名称 (仮称) 〇〇〇〇〇共同住宅新築工事 図面名称 ピット梁伏図	設計年月日 図番 S-05 縮尺 1:200
--	--	------------------------------



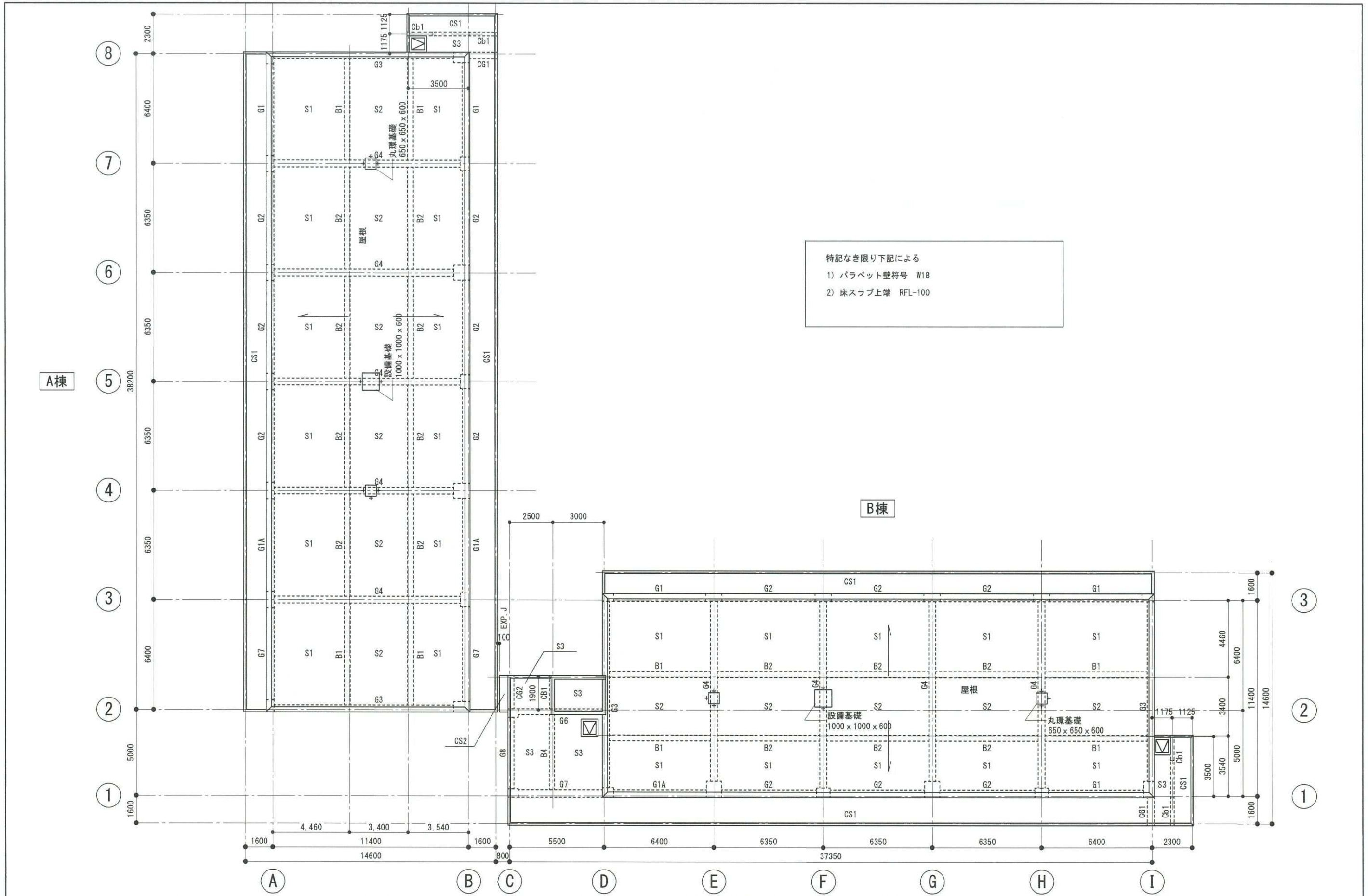
備考	一級建築士事務所○○○知事登録第○○○○号	工事名称 (仮称) ○○○○共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 ○○○○○一級建築士事務所		図番
	一級建築士○大臣登録第○○○○○号 ○○○○	図面名称 1階梁伏図	縮尺 1:200
			S-06



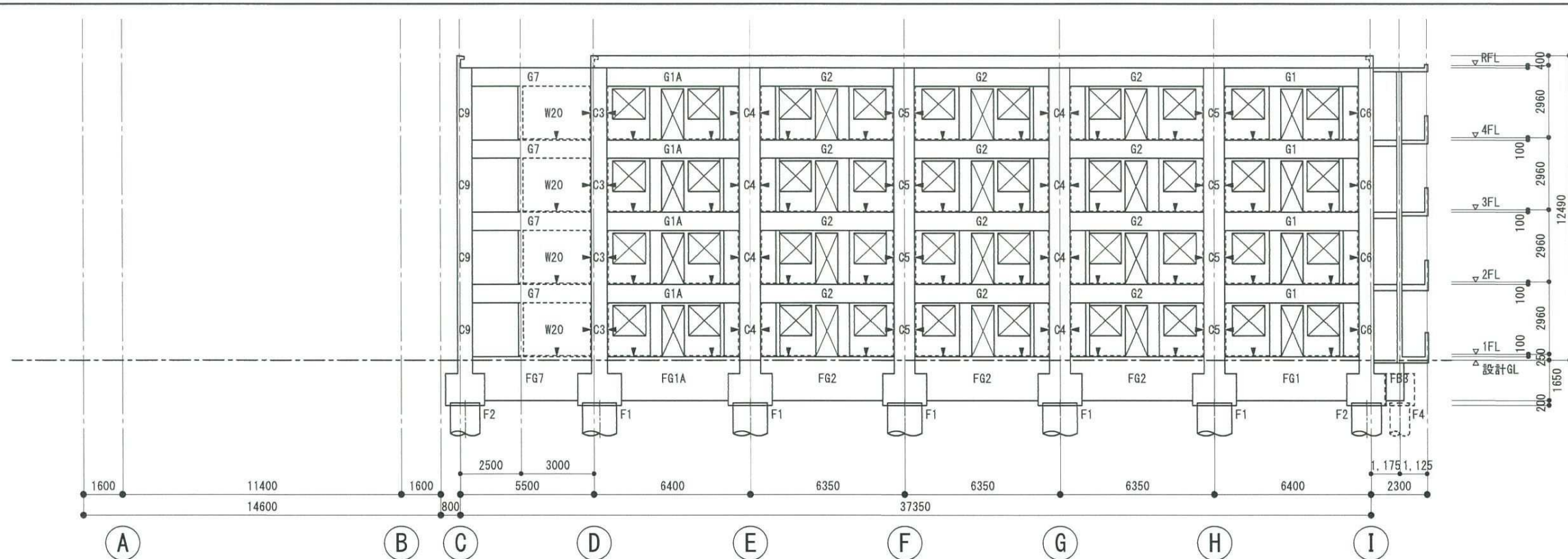
備考	一級建築士事務所○○○知事登録第○○○○号	工事名称 (仮称) ○○○○共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 ○○○○○一級建築士事務所		縮尺
	一級建築士○○大臣登録第○○○○○○号 ○○○○		図番
		図面名称 2階梁伏図	1:200 S-07



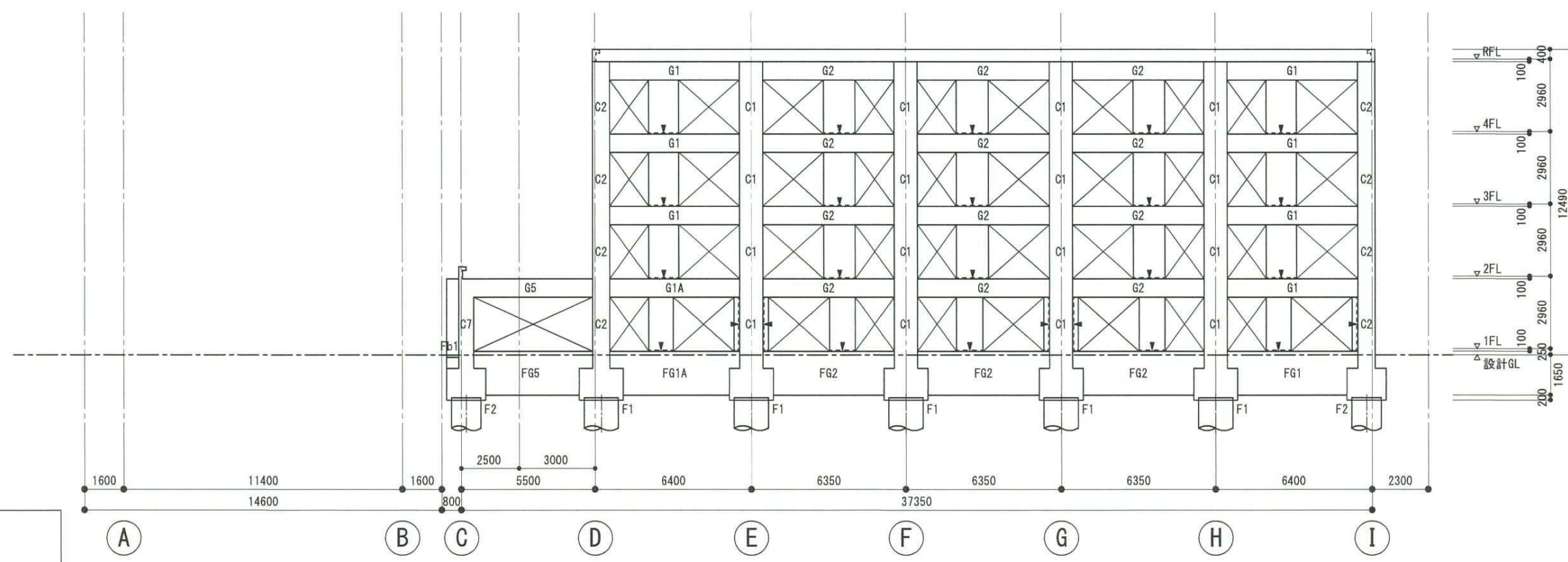
備考	一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号	工事名称 (仮称) 〇〇〇〇〇共同住宅新築工事	設計年月日	
	株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所			図番 S-08
	一級建築士〇〇〇〇大臣登録第〇〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇			図面名称 3.4階梁伏図
	縮尺 1:200			



備考	一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号	工事名称 (仮称) 〇〇〇〇〇共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所		図番
	一級建築士〇〇〇〇大臣登録第〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇		縮尺 1:200
図面名称 R階梁伏図			



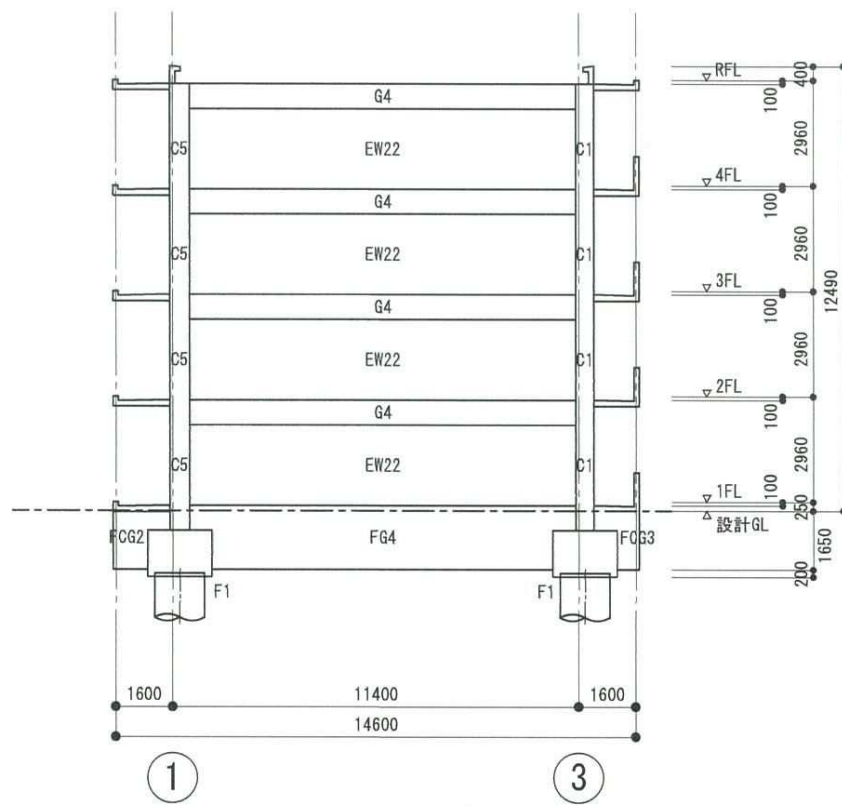
1通り軸組図 S=1/200



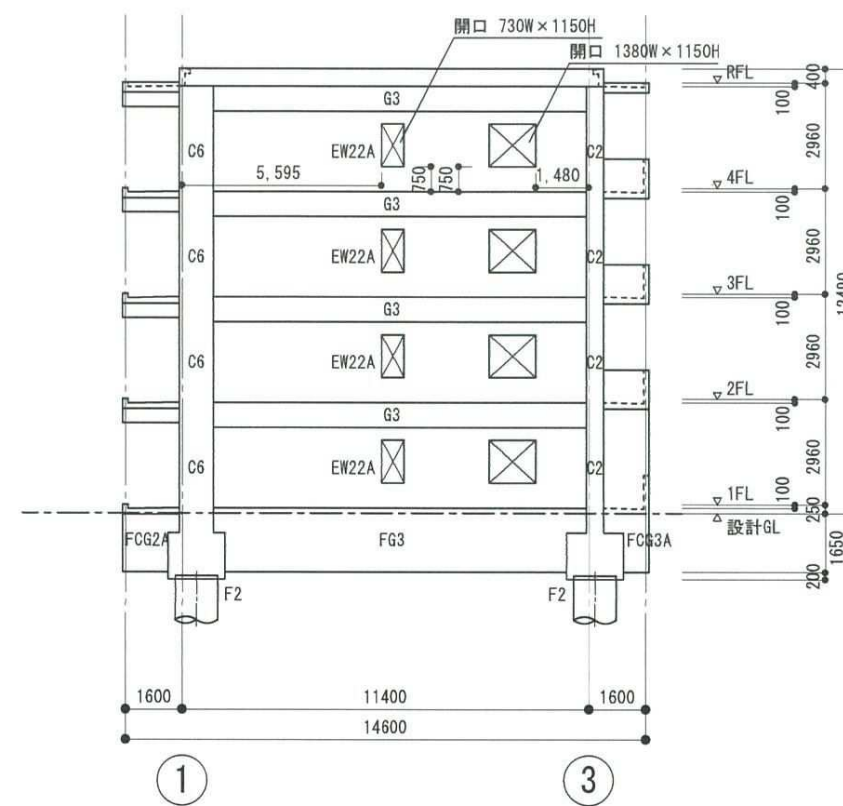
3通り軸組図 S=1/200

- 特記なき限り下記による
- 1) 壁符号 W15
 - 2) 床スラブ上端 1FL-100
 - 3) ▼印は構造壁スリットを示す

備考	一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号	工事名称 (仮称) 〇〇〇〇〇共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所		縮尺
	一級建築士〇〇大臣登録第〇〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇	図面名称 軸組図 (1)	図番 S-10



F通り軸組図 S=1/200

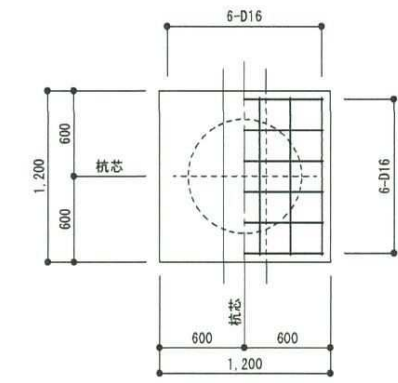
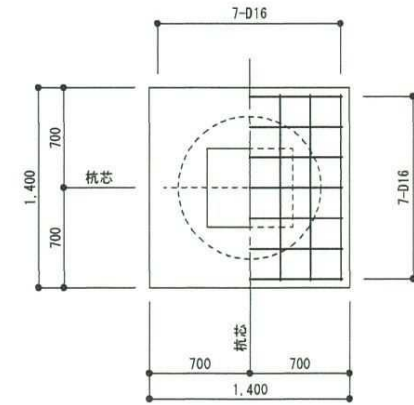
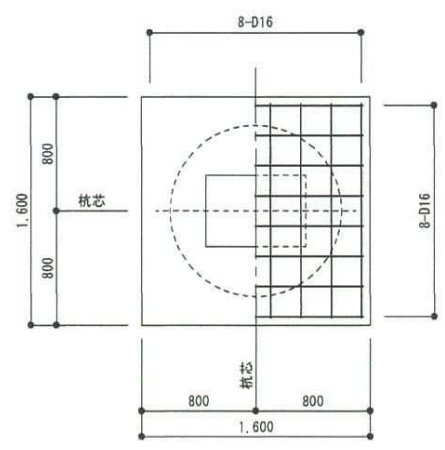
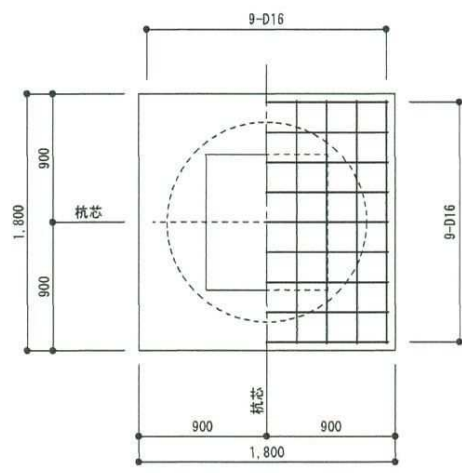
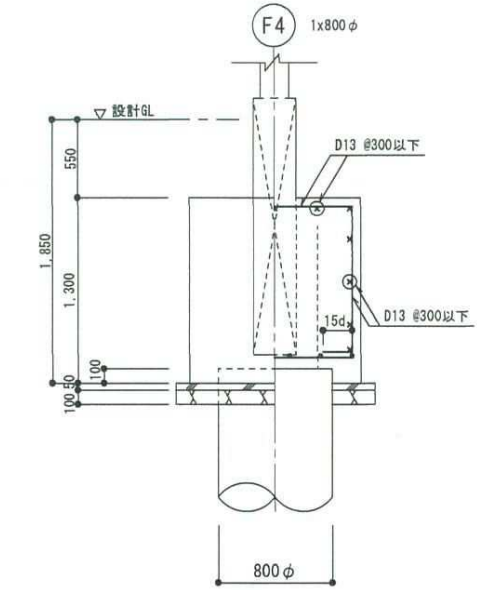
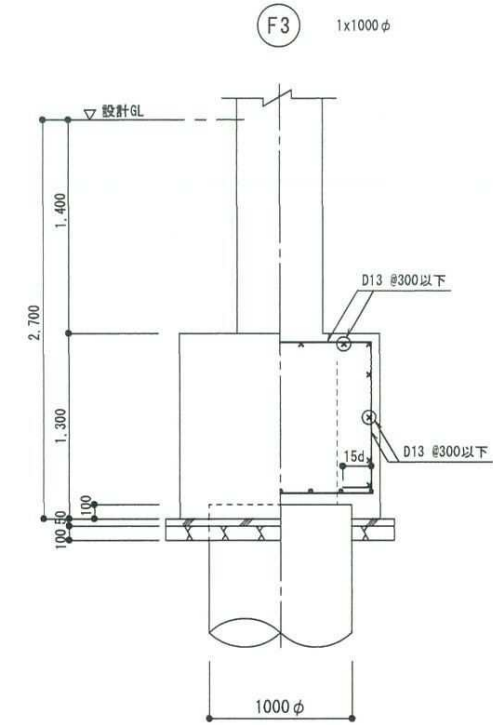
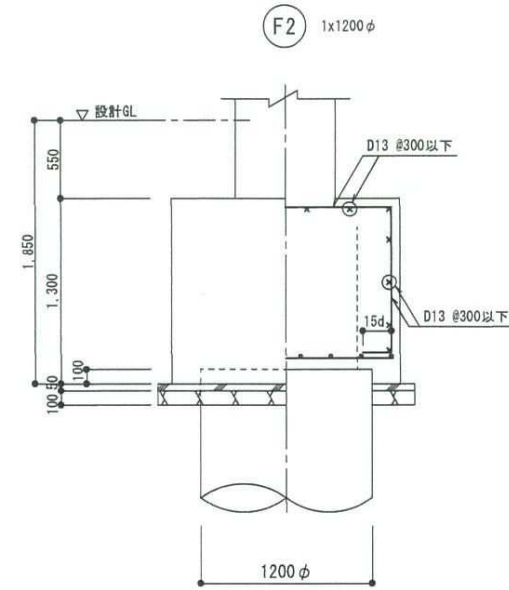
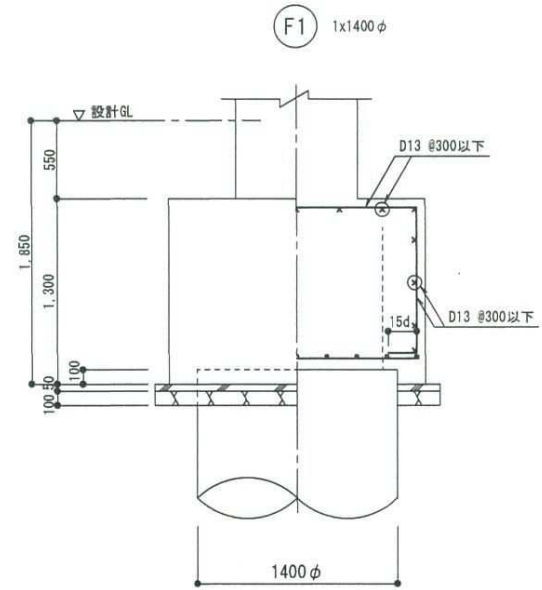


I通り軸組図 S=1/200

特記なき限り下記による

- 1) 壁符号 W15
- 2) 床スラブ上端 1FL-100
- 3) ▼印は構造壁スリットを示す

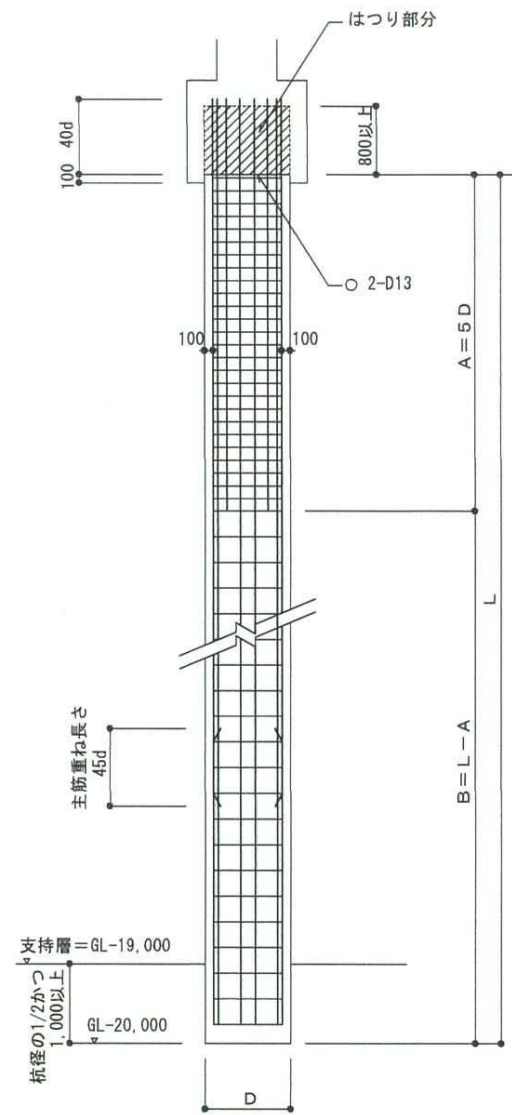
備考	一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号	工事名称 (仮称) 〇〇〇〇〇共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所		図番
	一級建築士〇〇大臣登録第〇〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇	図面名称 軸組図 (2)	縮尺 1:200
			S-11



備考	一級建築士事務所○○○知事登録第○○○○号	工事名称 (仮称) ○○○○○共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 ○○○○○一級建築士事務所		縮尺 1:50
	一級建築士○大臣登録第○○○○○○号 ○○○○		図番 S-12
図面名称 基礎リスト			

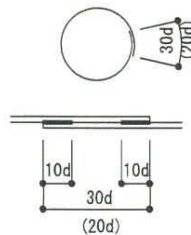
杭配筋要領

アースドリル工法



フープ筋(補強リング筋)継ぎ手詳細

()内は補強リング筋をしめす。



工事に先立ち、施工計画書を工事監理者に提出し承認を得ること。

- 1) コンクリート 普通コンクリート $F_c=27 \text{ N/mm}^2$ (四週圧縮強度)
 スランプ 18cm以下
 水セメント比 50%以下
 単位セメント量 330 kg/m^3 以上
 単位水量 185 kg/m^3 以下
 空気量 4~6%

- 2) 鉄筋 杭主筋 SD345 (D19以上・規格品)
 SD390 (D29以上・規格品)
 フープ・補強リング筋 SD295A (規格品)

- 杭主筋
 ・継手は重ね継手とし、継手長さは45d以上とする。
 ・主筋は1本につき3ヶ所以上の番線結束とする。
 ・基礎への定着は40d以上とする。

- フープ筋
 ・継手は30d以上の重ねりとし、両端10dずつを一層盛りりの片面溶接とする。
 ・主筋1本おきに溶接する。

- 補強リング筋
 ・杭径1000以下はD19 @2000、1100以上はD22 @2000とし、杭主筋との交差部はすべて溶接する。
 ・継手は20d以上の重ねりとし、両端10dずつを一層盛りりの片面溶接とする。

- スペーサー
 ・鉄筋のかぶり厚さは100とし、スペーサーにて位置を確保する。
 ・スペーサーは杭径1200以下の時、FB-38x4.5 1300以上の時、FB-50x4.5とし補強リング1本当たり4ヶ所に取り付け上下チドリに配置する。

- 3) 杭頭処理
 ・800以上増し打ちとしコンクリート硬化後フーチング内へ100残しはつり取る。

- 4) ベントナイト
 ・クニゲル又は、ホウジュンとする。

- 5) 杭長
 ・工事監理者立ち会いのもとに試験掘削を行い、支持層確認の上杭長を決定する。

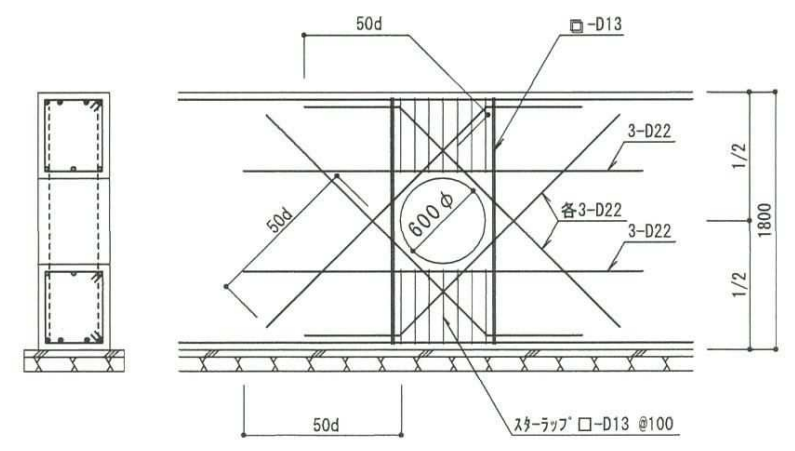
- 6) 底ざらい
 ・底ざらい工法は、予め施工要領書を工事監理者に提出し承認を得ること。

杭配筋リスト S=1/50

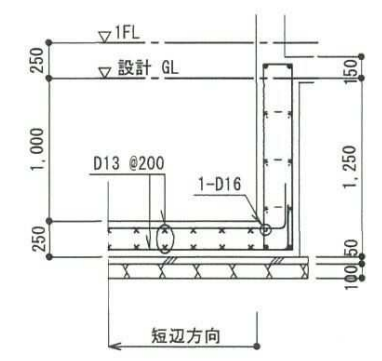
符号	P14	P12	P10	P8
杭径	1,400φ	1,200φ	1,000φ	800φ
A部				
主筋	20-D29	24-D29	16-D25	12-D19
フープ	○-D13 @150	○-D13 @150	○-D13 @150	○-D13 @150
B部				
主筋	10-D29	8-D29	8-D25	8-D19
フープ	○-D13 @300	○-D13 @300	○-D13 @300	○-D13 @300

符号	FG1	FG1A	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6			FG7	FG8
位置	全断面						2. C端	中央	3. D端	全断面	
断面											
上端筋	8-D25	7-D25	7-D25	3-D22	3-D22	7-D25	8-D25	8-D25	4-D25	7-D25	3-D22
下端筋	8-D25	6-D25	6-D25	3-D22	3-D22	7-D25	8-D25	8-D25	4-D25	7-D25	3-D22
スタ-ラップ	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200
腹筋	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10
符号	FG9	FCG1	FCG2・FCG3	FCG2A・FCG3A	FB1	FB2	FB3	Fb1			
位置	全断面										
断面											
上端筋	8-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	2-D19	3-D22	2-D19			
下端筋	8-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	2-D19	3-D22	2-D19			
スタ-ラップ	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D10 @200	□-D10 @200	□-D10 @200	□-D10 @200			
腹筋	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	6-D10	8-D10	8-D10			

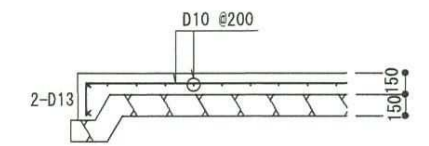
人通孔配筋要領



EV ビット

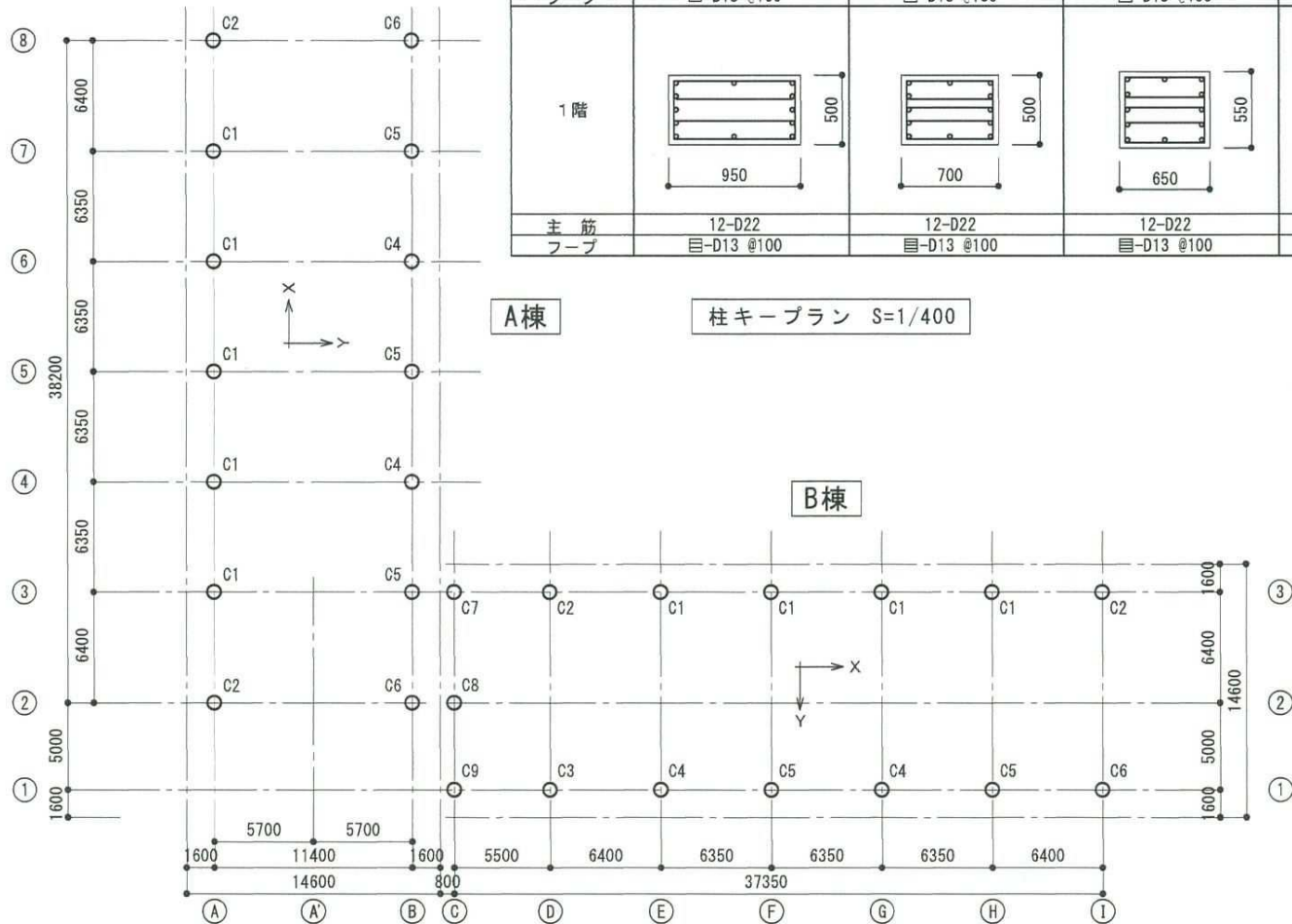


土間コンクリート



柱リスト S=1/50 巾止筋 D10 @600

符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	
4階							/			
主筋	10-D22	10-D22	10-D22	18-D22	10-D22	14-D22			10-D22	8-D22
フープ	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100			□-D13 @100	□-D13 @100
3階										
主筋	10-D22	12-D22	12-D22	18-D22	10-D22	16-D22		12-D22	12-D22	
フープ	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	
2階										
主筋	10-D22	12-D22	12-D22	18-D22	10-D22	16-D22		12-D22	12-D22	
フープ	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	
1階										
主筋	12-D22	12-D22	12-D22	22-D22	12-D22	16-D22	12-D22	12-D22	12-D22	
フープ	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	



大梁リスト(1) S=1/50

巾止筋 D10 ①600
桁行方向(X方向)の大梁主筋を外側に配置する。

符号	G1			G1A		G2		G3	G4	G5			G6					
	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面	2,C端	中央	3,D端	2,C端	中央	3,D端			
R階										/								
上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D19	4-D19				4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D19	4-D19				3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
スタ-ラップ		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D10 @150	□-D10 @150							□-D13 @200		
腹筋		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10				2-D10					
4階										/								
上端筋	7-D22	7-D22	7-D22	7-D22	6-D22	7-D22	7-D22	4-D19	4-D19				6-D22	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22
下端筋	5-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D19	4-D19				5-D22	5-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22
スタ-ラップ		□-D13 @150		□-D13 @150		□-D13 @150		□-D10 @150	□-D10 @150							□-D13 @200		
腹筋		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10				2-D10					
3階										/								
上端筋	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	6-D25	7-D25	7-D25	4-D19	4-D19				5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D19	4-D19				5-D25	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
スタ-ラップ		□-D13 @100		□-D13 @100		□-D13 @100		□-D10 @150	□-D10 @150							□-D13 @150		
腹筋		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10				2-D10					
2階																		
上端筋	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	6-D25	8-D25	8-D25	4-D19	4-D19	4-D25	4-D25	5-D25	6-D25	4-D25	4-D25			
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D19	4-D19	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25			
スタ-ラップ		□-D13 @100		□-D13 @100		□-D13 @100		□-D10 @150	□-D10 @150		□-D13 @200		□-D13 @150					
腹筋		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10		2-D10		2-D10					

大梁リスト(2) S=1/50

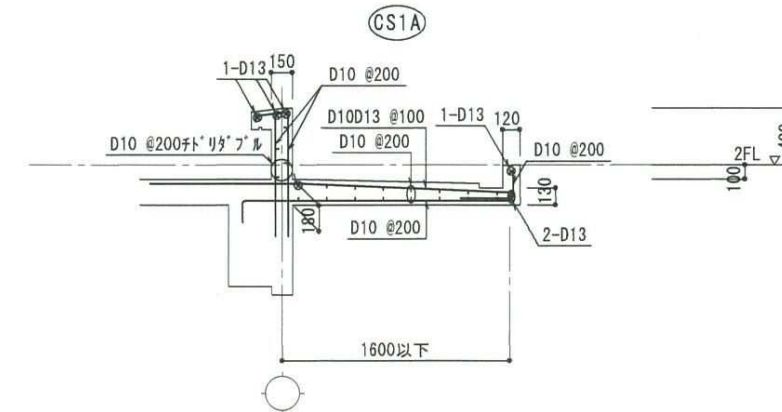
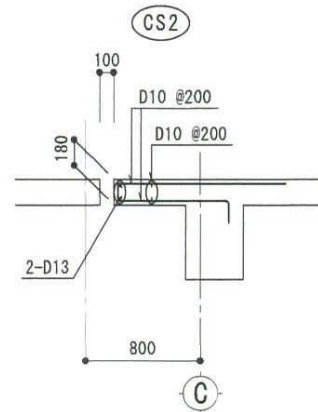
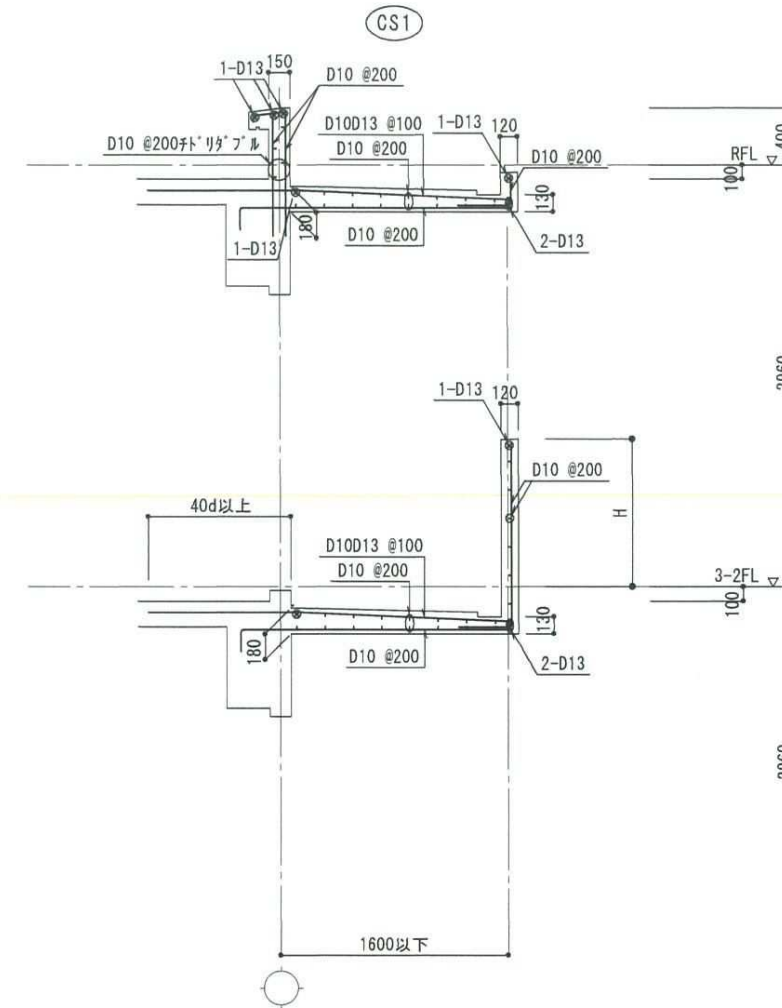
巾止筋 D10 ①@600

桁行方向(X方向)の大梁主筋を外側に配置する。

符号	G7			G8	G9	CG1	CG2
位置	外端	中央	内端	全断面	全断面	全断面	全断面
R階							
上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D19		4-D19	4-D19
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	4-D19		3-D19	4-D19
スタ-ラップ		□-D13 @200		□-D10 @150		□-D10 @150	□-D10 @150
腹筋		2-D10		2-D10			2-D10
4階							
上端筋	5-D22	5-D22	5-D22	4-D19		4-D19	4-D19
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	4-D19		3-D19	4-D19
スタ-ラップ		□-D13 @200		□-D10 @150		□-D10 @150	□-D10 @150
腹筋		2-D10		2-D10			2-D10
3階							
上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	4-D19		4-D19	4-D19
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D19		3-D19	4-D19
スタ-ラップ		□-D13 @150		□-D10 @150		□-D10 @150	□-D10 @150
腹筋		2-D10		2-D10			2-D10
2階							
上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D19	4-D19	3-D19	4-D19
スタ-ラップ		□-D13 @150		□-D10 @150	□-D10 @150	□-D10 @150	□-D10 @150
腹筋		2-D10		2-D10	2-D10		2-D10

小梁リスト S=1/50

符号	版厚	位置	短辺方向			長辺方向			備考
			端部	中央	周辺	端部	中央	周辺	
S1	180	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	D10・D13 @200	D10・D13 @250	D10・D13 @250	D10・D13 @250	モ77ミ
		下端筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @250	D10 @250	D10 @250	
S2	180	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	D10・D13 @200	D10・D13 @250	D10・D13 @250	D10・D13 @250	モ77ミ
		下端筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @250	D10 @250	D10 @250	
S3	180	上端筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @250	D10 @250	D10 @250	モ77ミ
		下端筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @250	D10 @250	D10 @250	



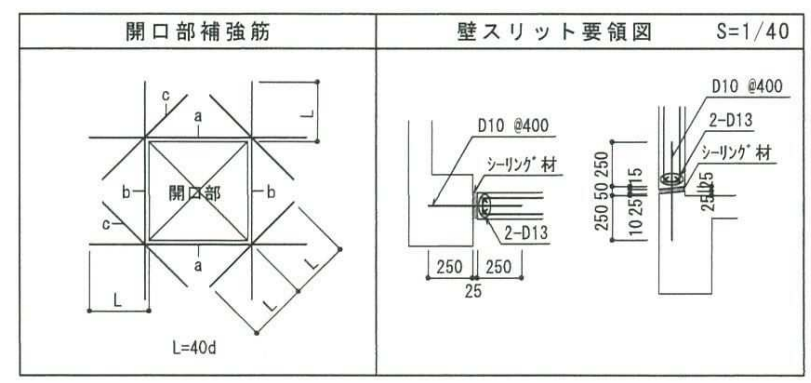
備考	一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号	工事名称	(仮称) 〇〇〇〇〇共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所	図面名称	スラブリスト	縮尺
	一級建築士〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇		1:50	図番
				S-18

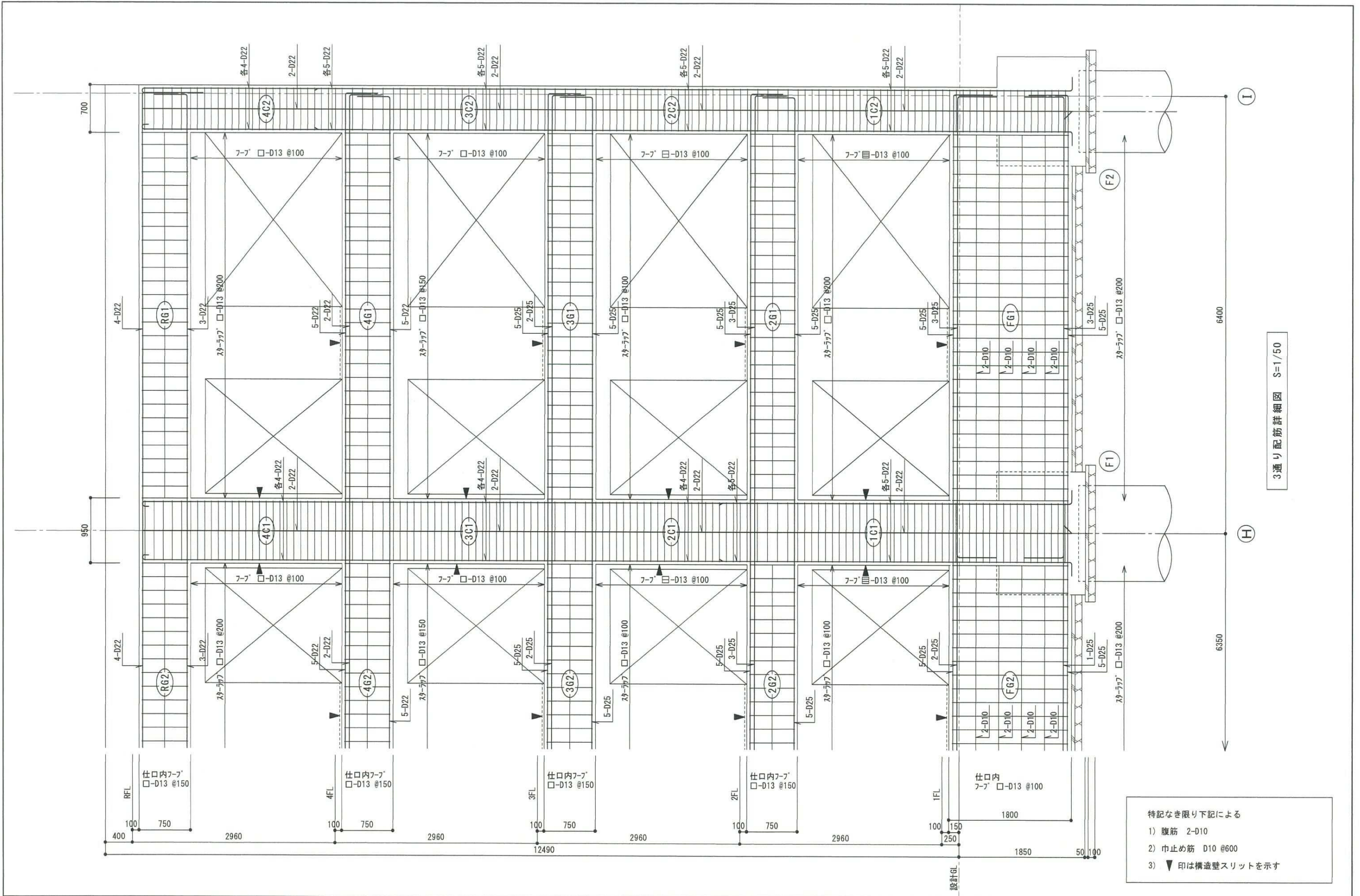
小梁リスト S=1/50 巾止筋 D10 〓 @600

符号	B1			B2		B3	B4	b1	CB1	Cb1	
位置	外端	中央	内端	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	基礎	先端
2階											
上端筋	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D16	3-D22	4-D16	2-D16
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D16	3-D22	2-D16	2-D16
スタック	〓-D10 @200			〓-D10 @200		〓-D10 @200	〓-D10 @200	〓-D10 @200	〓-D10 @200	〓-D10 @200	
腹筋						2-D10	2-D10	〓-D10 @200	2-D10		

壁リスト S=1/50 巾止筋 D10 〓 @1000

符号	W15	EW15	W20	EW22	EW22A
断面					
縦筋	D10 @250 チドリダブル	D10 @200 チドリダブル	D13 @200 ダブル	D10 @200 ダブル	D13 @200 ダブル
横筋	D10 @250 チドリダブル	D10 @200 チドリダブル	D10 @200 ダブル	D10 @200 ダブル	D10 @200 ダブル
開口部	a: 2-D13		2-D13		4-D13
	b: 2-D13		2-D16		4-D13
補強筋	c: 2-D13		2-D13		4-D13





3通り配筋詳細図 S-1/50

備考	一級建築士事務所〇〇〇〇知事登録第〇〇〇〇号	工事名称	(仮称)〇〇〇〇〇共同住宅新築工事	設計年月日
	株式会社 〇〇〇〇〇〇一級建築士事務所	図面名称	配筋詳細図	縮尺 1:50
	一級建築士〇〇大臣登録第〇〇〇〇〇〇号 〇〇〇〇〇			図番 S-20

地盤調査報告書

株式会社△△△△

〇〇様邸

※実際にご申請される際は実態に則した適切な調査報告書を添付してください。

株式会社●●建設